

DX はトップのリーダーシップから

電子機器の変遷と私の DX

私は、1954 年生まれの 67 歳です。1973 年大学の土木工学 2 年の時に、新発売された関数計算のできるシャープの電卓を買って、それが計算尺にとって替わりました。社会人になって様々な計算や積算見積もりも電卓でした。手書き資料作成はしばらくするとワープロの出現で変わりました。富士通のオアシスライトを愛用して、企画書などはワープロで作ってコピー機で大量に印刷していました。カラーや裏表印刷はその後だったと思います。

静岡県議会議員に当選したのが 1991 年でした。多くの後援会員の名簿管理や宛名書きなどに事務員を雇って入力しプリンターで打ち出しました。その時には NEC の PC98 が活躍しました。私も挑戦しましたが自ら使いこなすまでに至りませんでした。1993 年に Windows3.1 が販売されました。アプリケーションでクリックしてソフトが開くのが画期的でした。Windows3.1 が搭載された COMPAQ のノート型パソコンを買ったのが始まりでした。それから Windows95, 97, 2000、と現在は Windows11 です。自身のホームページやメールマガジンで情報発信をし始めたのも Windows になってからでした。現在では Facebook、Instagram や Twitter そして WeChat が情報発信ツールです。

私は、県議会議員になってパソコンとインターネットを始めたころ、この最新の双方向の通信手段を駆使したら「良い政治」ができるはずだと考えました。県議会の時代には、[ホームページ](#)はもとより、ブログも定期的に出し続けました。私のそれらの活動は今でも見ることができます 1999 年ごろからのホームページとか 2002 年ごろからのブログとか古いホームページもそのまま残してあるので見ることができます。今のホームページは市長を終わってから一度修正しました。旧のホームページもそこから入れます。今は、Facebook での発信ですが、皆さんとのやり取りは、SM、mail、Messenger、Line、WeChat、など様々です。

中国の進んだデジタル社会

私は、1990 年代から中国との交流を続けてきました。製造業の大成長や社会インフラの進展は驚くべきスピードでしたが、2010 年代を前後して、IT情報化社会の進展は更に驚異的です。4 年ほど前に上海に 2 か月滞在をしました。紙幣ではなくて携帯での決済が多くなっていましたので、現地で銀行口座を開けし携帯を買いました。これによ

って、中国の方と同じように「Alipay」「WeChat Pay」での電子決済が可能になりました。日本のコンビニと同じように QR コードを読み込んで支払うのは同じですが、携帯電話の画面をお互いが読み込むことで個人同士の支払いが可能なおことに驚きました。昔の中国では、紙幣が汚かったり、偽札があったり、盗難を心配したりとありましたが、電子マネーによってすべて解決できました。

日本でいうマイナンバーカードは、個人情報と銀行口座も保険証や買い物から移動履歴まですべて紐づけされることができ、街角の無数に設置されている監視カメラなども含めて「悪いことはできない」安全な管理社会になっています。個人情報すべてを政府が掌握できるわけですが、国民にとっては、「誰とでも話ができて(携帯代が安い)」「どこへでも移動出来て(地下鉄バス代が安い)」「食べ物に困らない(食事代が安い)」ことが一番のようです。

最近のコロナ対策では「健康コード」が導入され、地下鉄やバスや会社やレストランなどに入る時は提示が求められます。現実に役立っている「健康コード」に比べて、批判ばかりが目立つ日本の非接触アプリ COCOA との比較を待つまでもなく、日本と中国のソフト利用技術の差は歴然となっています。

実はこのようなソフト技術自体はかなり前から日本では確立されていましたが、個人情報保護法とか既得権益を守る岩盤規制などがあって、国内でその技術が生かされることはありませんでした。とても残念なことです。

Clubhouse という音声 SNS の魅力！

小さなスマートフォンがドラマチックな劇場と化しています。

Clubhouse はアメリカ企業が提供している音声 SNS アプリケーションです。

日本に導入されたのが 2020 年 12 月です。

コロナ禍でオンラインでのリモート会議などでは zoom が使われています。これは直接顔を出して、資料も共有できます。そのため身なりはそれなりに整え、女性ならお化粧品も必要です。それに対して clubhouse はラジオを聴いていて電話で出演するような感覚です。会議で図や写真が必要なものは無理ですが、声だけのやり取りでも十分にお伝えすることができます。clubhouse はラジオ感覚で聴いたり話したりできるわけですから面白い！と注目しました。案の定「招待制」で「あなただけ」という優越性も手伝って、

2 月には芸能人はじめ政治家なども入って大ブームになりました。私もそのころから始めました。最初は iphone だけでしたが 6 月から android でも利用できるようになりました。そして招待制がなくなり、さらに普及するかと思いましたが、最近では以前のような熱気が感じられません。

私は「世界中の人が気軽に話し合える場所を提供する」のコンセプトに加え、友人や見知らぬ人とラジオのような会話を楽しんだり、気軽に飛び入りで参加したりができるサービスに魅力を感じています。

私はこれに注目し、近隣の染谷島田市長、杉本牧之原市長、長谷川菊川市長、久保田掛川市長、草地磐田市長と、毎週土曜日の 7 時半から 8 時半までの 1 時間 clubhouse を開催しています。前半を市長さん方が「今朝のニュースから」とか「市長所感」など話をしてもらって、後半をゲストスピーカーにお願いしています。私はプロデューサー兼ディレクター兼 MC です。スタートして 10 か月になります。昨年暮れに「これからどうしましょうか？」と市長さん方に相談したら、「毎週毎週はきついが、市長同士の情報交換になるし、なんととっても聴くのを楽しみにしている人がいるから」と 6 月末まで継続することにしました。

8:17

4G

✓ Hallway

Leave quietly

今朝の新聞を読みながら !!

...

153 · 83 here now · Insights · Replays on

+ ADD TOPICS



* 西原



増山達也



寛彦



基久雄



崇



染谷



草地

Followed by the speakers



毎週開催される 5 市長による clubhouse (スマホ画面)

今までに、政令市の浜松市長や国会議員などはじめ様々な専門分野の皆さんがゲストスピーカーとして出演してくれました。

最初のころあった「録音禁止」などの clubhouse ルールはなくなり、replay 機能もついてきたので便利です。でも逆に市長さん方から「自由にしゃべりたいから録音はしないでほしい」と要望があり、土曜日の朝の clubhouse は replay off にしています。

市長、それも 5 人もの市長が、毎週土曜日の朝 1 時間も情報交換をしている地域はおそらく日本にはないでしょうし世界でもやっていないと思います。気軽に始めた clubhouse ですが、DX の活用の良い事例だと思います。

飛躍的なスピードで進む DX の導入は、私たちの生活の利便性を向上して豊かにしてくれることは間違いないと確信しています。一方、その中で、所得や住んでいる地域や様々な条件によって格差が生じないようにしなければなりません。困っていること、悩みや課題を、気軽に話すことができ聴くことができるプラットフォームとしての SNS が充実していくことが望まれます。自治体でも企業でも DX の必要性が叫ばれていますが、鍵はトップの自らやろう！というリーダーシップです。

文: 西原茂樹, MIJBC 理事長
翻译编辑: JST 客观日本编辑部